

## 外来水生植物試験駆除（コンバー）の視察報告

- ・日時/2020年8月5日（水） 9時00分～11時20分
- ・集合/手賀沼親水広場第2駐車場
- ・出港・帰港/我孫子手賀沼漁協棧橋
- ・場所/手賀沼 大堀川河口部の北側（根戸新田交差点南側）
- ・みずすまし号/県立中央博：林紀男氏、千葉県水質保全課：大島班長、小田上副主幹、  
ヤンマー関連会社（ハーベスター駆除の担当者）：山本氏、石橋氏  
美手連 6名  
船運行/アルバトロスヨットクラブ 2名
- ・ヨットクラブ動力船/美手連・アルバトロスヨットクラブ 4名
- ・宇部工業作業船/宇部工業（コンバー説明員）、いであ株式会社（弓木氏・安間氏）
- ・報告/小倉久子

※この見学は手賀沼流域フォーラム調査事業の一環です。

### <水草刈り取り船の仕様 等>

- ・機種名：CONVER C-550（宇部工業株式会社、オランダ製）
- ・駆除方法：5種類のアタッチメントにより、種々の水草駆除に対応が可能。  
今回は、レーキバケットを装着し、すくい上げ駆除を実施。
- ・水陸両用（陸上部：キャタピラで自力移動、水上部：プロペラ船として移動）
- ・駆除能力：約 150m<sup>2</sup>/日
- ・今回の試験駆除面積：約 1,000 m<sup>2</sup>

### <視察報告>

◆ 集合場所の親水広場第2駐車場に、利根川水系土地改良調査管理事務所の葭井所長はじめ4名の皆さんが、挨拶にお見えになり、農水省としても手賀沼のナガエツルノゲイトウ・オオバナミズキンバイの異常繁茂について重要視している、ぜひ協力して対応したい、と話された。

### ◆ 出航前



まず出航前に竹内事務局長から、本日の概要と注意事項の説明。  
「猛暑の警戒警報が出ているので、熱中症にご注意下さい！」

◆ 試験駆除現場



駆除現場に到着。第1回目駆除試験（ハーベスター）を行った場所に隣接するエリア（駆除面積は同じ）

◆ CONVER（レーキバケット）による水草駆除

① レーキを群落に突き刺し、

② すくい上げる。



③ 横付けしている運搬船の上に積み上げる。

④ いっぱいになったら柏土木の栈橋に運搬



コンバーは船内に、ハーベスターのような一時貯留スペースを持たないので、運搬船がいっぱいになると、次の運搬船が到着するまで駆除作業は中断される。効率を上げるためには運搬船を増やすことが必要。

◆ 作業場所の移動



岸まで駆除したら、船尾のスパット（2本立っている杭）を引き上げて、スクリューで自走して移動する。作業中はスパットを湖底に突き刺して、船体を固定しておく。水深が浅いため、スクリューを回すと底泥が巻き上がっていた。

◆ 駆除終了



◆ 風下にフェンスを張り、流れ藻を掬い取る。



◆ 宇部工業の方からの説明



オランダ（水路が多く、水草繁茂の問題が多い国）から輸入した機械であり、少し大型の姉妹機はすでに全国各地で水草駆除の実績を持つ。コンバーは小型なので、普通に道路を運搬できる。水陸両用で、アタッチメントを付け替えることにより、多様な地形や水草に対応可能である。

コンバーは、道の駅「しょうなん」そばの柏土木事務所管理の船着き場のスロープから自走して入水し、駆除現場までは「船」として航走した。



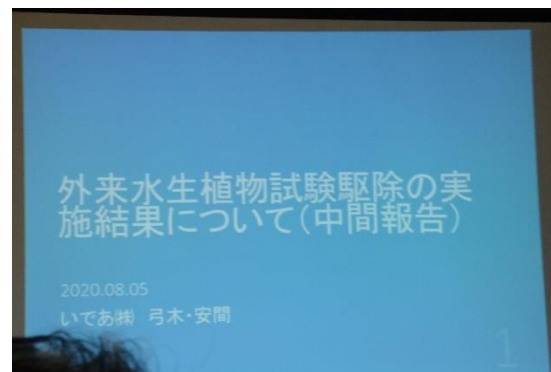
#### ◆ ハーベスター刈り取り 40 日後の確認



第 1 回試験（ハーベスター；6 月 29 日～7 月 3 日）の駆除後の様子を確認した。水際線のヨシ・マコモ帯の中も 1m 程度奥まで、人力で駆除したにもかかわらず、40 日後には、早くもナガエ、オオバナの小さな群落がいくつか漂着し、そのほか多数の葉片の漂着により、新しい群落の形成が始まっていた（ガックリ！）。

これらの漂着群落の供給源は、風向や湖流から考えて、対岸の北千葉導水第 2 機場前の大群落である可能性が大きい。（小林さん、石橋さん談）

#### ◆ 情報・意見交換会



昼食後、12 時 30 分～14 時 30 分まで、アビスタ 2 階の和室を会場にして、三密状態にならないように配慮した上で、情報・意見交換会が行われた。

まず、今回の試験駆除事業の受託者である、いであ株式会社の弓木さんから、第 1 回試験駆除（ハーベスター）の実施結果を、速報として報告していただいた。

ハーベスターによる駆除は、当初の予定作業を順調に終了し、1,101.2m<sup>2</sup>を駆除できた。駆除後は 1 週間に 1 度モニタリングを続けているが、早くも千切れ藻（特にオオバナの幼葉）が生長を始めている。

また、ヤンマー関連会社の山本、石橋両氏にも補足説明や質問に答えていただき、今後の手賀沼での駆除について、アドバイスをいただいた。特に、ハーベスター駆除後にすでに新しい群落が広

がり始めていることに危機感を覚え、大規模駆除後の巡回・定期駆除の重要性を訴えられた。また、ハーベスターの場合はジェット水流を用いてきちんと根まで駆除するが、コンバーを使った駆除では、水中・底泥中の茎や根が取り残される可能性が高いので、機械駆除後の手入れが必須であることが強調された。

巡回・定期駆除の実施体制を含め、今後手賀沼で、どのように外来水草を管理していけばよいかについて、水質保全課湖沼浄化推進班と美手連メンバーとで意見交換を行ったが、時間が来たので、継続して話し合うこととして終了した。